

この作品には、一部に性的な表現や暴力的な描写、性差別的な表現および

特定のセクシャリティへの差別表現が含まれています。

不安やご不快を感じられる可能性のある方は、あらかじめご留意ください。

『Fusion, (フュージョン、)』

作・川村智基

【作品概要】

2年前、大好きだった友人が壊れた。

両親は幼い頃に離婚し、親権のない母親の両親に何故か引き取られ、そこで酷いネグレクトを受けながらも真っ直ぐに生きていたのだが、彼女にとって唯一の安心出来る人であった弟は10年前に自死した。

母親の両親らは“生活費”として金銭をせびり、もし支払いが滞れば弟の遺品を処分すると脅す。

彼女はパパ活などでなんとか弟の残積を守り続ける日々だった。

しかし、限界を迎えた彼女は統合失調症を発症、弟の部屋で今日も暮らしている。

上述の友人をどうにかして残したい、と思っていた。

そこで今作はその事実を材を得ながらも、近年世界中で増加しつつあるとされる若者の無力化傾向やドラッグ依存など(Doomer、寝そべり族、トー横キッズ etc)に着目し、『sex』を介してでしか人と安心してコミュニケーションを取れない現代の若者が、初めて人と握手するとき、一体何が起こるのか。』という疑問の元、執筆を始めた。

【あらすじ】

シェアハウスをする若者5人の生活は、弟アキラを自死で失い、定期的にパニック発作を起こすようになってしまったリヨウを中心に歪んでいく。

日々パニックに苦しむリヨウを、カイトはやたらと献身的に支え、同居人のコウキは、強迫的に部屋の床を拭き、その摩擦と抵抗と引力の關係に悦楽を感じている。タクヤは、それらを批判的に眺めながらも、この場所から出ることはなかった。

そんなある日、カエデのお腹に新たな命が宿っていることが、カエデ本人の口から語られる。それをきっかけに、これまで何とか平穏を保っていた5人の關係は一気に崩壊する。

その崩壊の過程で、暴力と快楽、言葉と身体の境界は曖昧となり、やがて衝突は儀式の様な身体表現へと変質しゆく。混線する欲望と痛みの中で、彼らは崩壊と誕生が同時に起こる地点へと導かれていく。

ツル、ザラ、ゾク、グイ。キモチー。

【状況設定】

リヨウの祖父母が所有している家。
かなり大きいため、コウキ・タクヤ・カイト・カエデとの五人でシェアハウスをしている。
年齢は全員二〇代前半。
舞台装置は、簡素なものが好ましい。
また、上演の際には『リンゴ』『マクドナルドのハッピーセット』のみ実際の小道具として使用する。

【登場人物】

リヨウ
タクヤ
カエデ
コウキ
カイト

【第○場・開演前】

舞台上の椅子に座り、寝ているように見えるリヨウを演じる俳優。
コウキは床を拭いている。

【第一場(導入)】

場所は一階にある共有スペース。

コウキが床を拭き続けている。

その床は腐っており、ガサガサと異質な刺激を与えてくるが、それがコウキにとって問題にはならないらしく、ひたすらにその作業を続けている。

リヨウがフツと起きる。

コウキ 起きた？

リヨウ あ、ああ。うん。

コウキ っつか、失神してたんか。

リヨウ 分からん、最近ずっと頭めっちゃ痛くて、

コウキ ……

リヨウ ……アキラ、

コウキはなかなか落ちない汚れを発見する。

思いつきり拭こうとするとそれがチツクのようになり、違和感のない範囲で大きくなる

やや苦しそう。

それは、リヨウにも伝播する

リヨウ あかんで！

コウキ へ？

リヨウ あかんで、それ、暴力やから。

コウキ 暴力？

コウキ ほう？

リヨウ あかんねん。

コウキ え？

リヨウ あかんねんって。お前。な？

コウキ はい。

リヨウ 引力歪んでもうてんねんて、多分。やから。

コウキ あ、うす。

リヨウ 溶けんで、お前。

コウキ は？

リヨウ ごめん、記憶をカラダで瞬間冷凍してるから。溶けるとヤバイ、

コウキ ああ、

カイトが戻ってくる。

カイトが入ってくるなり緊張が少し解けるリヨウ。

カイト リヨウ

リヨウ あ、カイト、

リヨウはカイトを求め、カイトは受け入れる。

リヨウ 不安やった。

カイト ちよっとトイレ行ってただけやん。

リヨウ それでも。

カイト そうか、

リヨウはカイトの手の甲に親しみを持ってキスをする

カイト 気分は？

リヨウ カイトおったら、

カイト・・・そう、良かった。

リヨウ うん、

カイト 二人帰ってきたけど、

リヨウ あ、

カイト え、いける？ここで。その、体調的に

リヨウ (頷く)

カイト (コウキの方を見て)

コウキ あ、僕あれやから。これしてるだけやから。

カイト あー、おけ。

コウキ あ、みんな来るなら辞めた方が良い？(拭き掃除を指して)

カイト いや、どっちゃでも。知らんけど。

コウキ あ、お、ういーすうっす。

リヨウ カイト、

カイト いや、ちよっとゴミ出してくるだけやから、

リヨウ ああ、

カイト 大丈夫、すぐ戻るから、

リヨウ

カイトが出ていく

リヨウがひとりでに深いため息をつく。
それにビビってリヨウを見る、コウキ。

コウキ え、あかんかった？

リヨウ (よくわからんため息)

コウキ え？

リヨウ クワーーーー。

コウキ なんやねん、日本語使えよコイツ(独り言的に)

リヨウ 引力歪んでんな。お前。

コウキ ……せやな。

コウキが出ていく。

カイトが、タクヤとカエデを連れて入ってくる

タクヤ お、ただいま。

タクヤは挨拶としてリヨウを抱きしめようとする
それに対して体をよじり、猛烈に拒絶するリヨウ。

リヨウ おう、いや、ちよ、えぐいえぐいえぐい……

カエデ ねえ

タクヤ あ、ごめんごめんほい(握手を求める)

リヨウ おつかれい。

カエデ お疲れ、

カエデとリヨウはいつもの雰囲気でハグをする。

カイト え？(コウキが見当たらないことに疑問を抱き)

リヨウ あ、あれ。絞りに。

カイト あー

タクヤ え、まってコウキまだやってんの？(湿った床を確認しながら)

カイト いや、それな。

タクヤ 俺ら出てから？

カイト ああ、

タクヤ 三時間以上やってんじゃん、しんど。

カイト なんか楽しそーにしてたけどな、

タクヤ すんごいじゃんw、え、あっち？
リヨウ うん。

タクヤ ちよいからかってくるわ。こいよ、
カイト いや、リヨウが

真顔になるタクヤ

タクヤ え、マジ？

カイトは気圧される。

カイト 分かったやんごめんやん行くやん。

タクヤ ちよ、早くいこうぜマジ

カイト わーかったから、

タクヤ ちよいちよいちよい

カイトとタクヤは出ていく

リヨウは、執拗にお腹をさすっている。

慣れた様子で、普通に話しかけるカエデ。

カエデ 最近どうよ？

リヨウ いや、ちよっと崩れててさ

カエデ あー、元々不調気味やもんな

リヨウ にしてもえぐいねんマジ

カエデ そんな？

リヨウ 一週間ごとに来ててさ。

カエデ ガチ？

リヨウ ホンマに止まらんのよ

カエデ 嘘やん

リヨウ ホンマに

カエデ え？

リヨウ ちよ、見てやホンマ。逆におもろいから。

カエデ えー

リヨウはスマホを取り出して、ルナルナを開き、カエデに見せる

タクヤ お前、ちよいやれってマジで。

コウキ いや、なんかはずいわちよつと。

タクヤ だるいってマジ。

コウキ いや、ちゃうやん。

コウキが、一発ギャグを行う。

何とも言えない雰囲気。

タクヤ 戻れよ。

コウキ ふえ?!あ、はい。

コウキは、拭き掃除に戻る

カエデ (その様を見て)ちゃんと始末して偉いな。

コウキ いや、これ趣味ってか日常ってか強迫って言うかやからな

タクヤ 床腐ってるけどな。こいつのせいで。

コウキ いや、ぼくこれ掃除が目的じゃないから。

タクヤ じゃあなんなのw

コウキ 行?

タクヤ ギョウ?

コウキ ギョー。

タクヤ ギョウってあの、暇な奴らがやる?

コウキ いや、なんかやりだしたらさ落ち着くんよね。拭くと。摩擦と抵抗があるやん。ツ

ル、ザラ、キモチー。って、生きてるなって。

タクヤ おいきツイって。

コウキ えー、

タクヤ お前のせいでこの家全体カビくせーんだから、

コウキ 共有スペースと僕の部屋しか拭いてないからええやろ。

タクヤ ガチくせえ、

カエデ じゃあタクヤもたまには掃除かなんかしたら?

タクヤ いや、俺はボーっとすんのが仕事だから、

リヨウ クワア、

カエデ え、ホンマにキモいそーゆーとこ

タクヤ は?お前の腐り切った性格よりマシだろビッチ。

カエデ はいはいはい、

リヨウ え、あのさ、なんで付き合ってるん?

カエデ あー、なんでやる、
タクヤ いや、死ねよ。

瞬間、死ねという言葉にブチギレてタクヤを鬼の勢いで掴むリョウ

リョウ あ????

タクヤ え?

リョウ なんつった?

タクヤ は?

リョウ そんなんは暴力やねんで。陵辱的な。分かってる? プチョヘンザ?

タクヤ (ふちよへんざ。)

タクヤは両手をあげる。

リョウ ジェットコースターのなサムシングにしたらお前玉ひゅんやねんからな。ホンマに。

タクヤ ごめんって。訂正するから。(リョウをなだめようと手をおろしかける)

リョウ ふちよへんざっ!!!

タクヤ (プチョヘンザ。)

リョウ 二度と言うなよ。それ。(離しながら、)

タクヤ もうお前情緒ゴリラじゃん、悪化した?

言い忘れていたが、この時コウキはずっと床を拭いてる。それは例えば手で拭いていたり、肘、顎、局部等、どこでもよい。しかし、それは明確に拭いている何かでなければならぬ。また、日常からその動きは逸脱を始めているかも知れないが、絶望のないところに希望がないように、繋がりがらしか孤独は生まれないように、明確な対偶を身体の中に保持せねばならない。連綿と続くなにか。

リョウ ホンマに、パリピってパピコみたいよな。

タクヤ 確かに。

リョウ やっぱ分かる?(嬉しそう)

タクヤ シェアハピしていこう。

突然、目を見開き硬直するリョウ

リョウ ってか、なんかさむない?

カエデ いや、そんなにやけど。

リヨウ そう？

タクヤ お前がそんなバカみたいな服装してるからだろ冷静に

リヨウ プチヨ！

タクヤ ヘンザ。(腕をあげる。)

リヨウ おお、おっきなつた。

タクヤ おっきいよ。

カイトが戻ってくる

カエデ あ、おつかれ。

カイト うん、

リヨウ あ、来たかも。

リヨウは頭を抱える

カイト どないした、

リヨウ いや、ごめんちょっとやばいかも

カイト 頭痛？

リヨウ (頷く)

リヨウは悶絶する。

タクヤ へ？

カエデ (タクヤに近づき)悪化してるよな。

タクヤ してるな。

カエデ つかспан早ない？最近、大丈夫？

カイト 多分。

タクヤ なんてなってるの

カイト 多分。

リヨウは静かになる

タクヤ 寝た？

カイト 失神ちゃう

カエデ ちょっと前までマシやったのにな、

カイト　せやな、

タクヤ　定期的に失神する奴にマシもクソもあるかよ

カエデ　でも急に泡吹いて倒れてた時よりかは、

タクヤ　普通泡吹かねーだろ、クラムボンかよ、

カエデ　だとしたら死んでじゃん、

タクヤ　お、馬鹿でも分かるんだ

カエデ　あ？

タクヤ　ごめん流石にキモいからちよつと先部屋戻ってていい？一緒に暮らしてるだけでもしんどのいのに、気分悪いわ。

カエデ　ちよつと

タクヤ　いやバケモンだろ、いい？

カイト　あ、ええよ。

タクヤ　つかお前なんでそんなに普通に居れんの

カイト　え、だって

タクヤ　色々はき違えんなよ、

カイト　・・・ああ、

タクヤ　来いよ、え、・・・(カエデを)借りていいよね？

カイト　俺は別に、

タクヤ　サンキュ、行こ、任せた。

カエデ　ああ、

カエデとタクヤは出ていく。

部屋には空間を拭いて変になっているコウキと、失神しているリョウ。佇むカイト。

少しの間

カイトはピエタのようにリョウを膝に乗せ、抱く。

リョウはゆっくりと顔をあげる、状況を理解できずパニックである。

カイト　大丈夫？

リョウ　ごめんごめんごめんごめん、

カイト　分かってるから、

カイトはリョウを撫でる。

リョウ　あれ、二人は？

カイト　部屋戻ったよ、

リョウ　ごめんごめんごめんごめん、

カイト 大丈夫、

リヨウ ごめんごめんごめん、

カイト 大丈夫、大丈夫、

リヨウ 最近頭痛の頻度やばくて、意識飛び飛びで、

カイト フラッシュバック？

リヨウ あ、ああ、うん。

カイト ごめん、アキラのこと思い出させたな、

リヨウ 良いねん、会えるから

カイト え？

リヨウの身体は、大きな存在に操られるようにしてのたうつ。
相反する全てが同居し始める。

リヨウ 頭痛くてさ、意識飛んでるとき、偶にやけどアキラおるからさ、中学生の姿のまま
やねん。

カイト うん、

リヨウ 自分でさ、首くくってさ、

カイト うん、

リヨウ しんどかったやろうに、

カイト うん、

リヨウ あたしが守ってあげればよかってんけど、私がちゃんと気付いてあげれてたら、
見て見ぬ振りしちゃったから、

カイト そんなことないよ

リヨウ あいつらの中に一人つきりにしちゃったから、

カイト 自分責めんなって

リヨウ 最近さ思うねん、

カイト なに？

リヨウ なんかさ、全部滅茶苦茶に壊してしまえばさ、ぐっちやぐっちやに、もう一回アキラ
に会えるんちゃうかなって、だってさ、アキラはここが嫌やったわけやろ？壊した
ら別やん、ははは、別やん。新しい世界作ってあげないと私が、はははは

カイト おい、

リヨウ ってか、私がもし妊娠したらさ、アキラお腹に帰ってきてくれると思うねん。ほし
いなあ、早く、赤ちゃん、作らな。

カイト (よしよし)

リヨウ クワーーーーー

カイト うん、(リヨウのお腹をさすって)

リヨウ あと、言葉って後付けやろ。

カイト そうやな、

リヨウ 言葉でしか伝えられない気持ち持つくらいなら、死ねばええと思わへん？

カイト 確かに。

リヨウ やろ？ってか心ってクワーーーーーやん、全部。クワ！クワーーーー！！！！ははは、

カイト そうやね。

リヨウ 本来はクワーーーーのはずやから、

段々と過呼吸になり、徐々に涙があふれるなど、パニック状態になりゆくリヨウ

カイト どないしたん？

パニックの悪化。

カイト おいおいおい、

パニックの悪化、増大するエネルギー。

カイトにも、その矛先が向かい始める。

カイト 大丈夫、大丈夫。

カイトにもリヨウの何かは向かい続ける。

ベクトルが鋭くなる。

リヨウ カイト、カイト、か い と

増幅する。

負荷が限界に漸近する。

時々の爆発、たまに訪れるノツキング。

交流電流のように切り替わり続ける身体と精神。

カイトとリヨウは、痛みを分かち合うようにキスをする。

ここら部分的に、カイトとリヨウは入れ替わる？かもしれない。

より歪になる、コウキの身体。

コウキは観客に語り掛ける。

コウキ 怖かったね。いやだよねえ、見たくないよねえ、ちょっと、一旦ここから始めるん

ですけどその摩擦？気持ち良くないっすか。シンプル。なんかチク、ザラ、キモチー。みたいな。もう毎日クソ拭いてるもんだから身体が相対性理論？って言うかミキシングミキシングで、多分細胞核から感じてるんですよねこれ。繋がっちゃって細胞核が。仕方ねえ。あ、そういえば細胞核がドッキングしたらエネルギードーンみたいならしいですね。えぐう。スピード加速しすぎて世界変やあ、的。アインシュタイン？相対性理論？時間歪み。頭抱えちゃうでござす、ってかゴメス。ウケる。もう少々故障した和尚さんを治してあげたい！ってある種の宗教的価値観？を拭いて悟ってたら、あ、脳髓にキタ、キモチイイ。多分これが宗教の起りなんやろなあ、分かります？起こるんすよ、これで宗教。衆道？ゲイ？っすもんね基本開祖たちクソヤリチンやし。あとは戦国武将！もやばいw！！！！ってか僕LGBTQって嫌いで(地面をからの摩擦で一瞬の快感)、あ、ダメ。ちょエグイって(床に対して)。あ。そう嫌いなんすよ。ってか僕はゲイなんすけど、当事者なんすけど、・・・当事者なんすけど！！！！LGBTQって却って差別を煽る装置じゃないですか。虹色の分断なんすよ。多分鬼畜米英の日本劣化計画と一緒になんすよ。ワクチンと同列。はい、SNSで知りました。(カイトとリヨウに向かって)な??????

キスを中断してカイトとリヨウがこちらを見る

コウキ パパ活とか、立ちんぼも結局はSNSで失われた日常の繋がりを求めてるだけだもんな、良いじゃん。セックスだけしてれば。気持ちいいし。忘れられるし。セックスで。過剰なつながりだもん。繋がってたら怖くないもん。ファツキンリベラルビツチだよ。見えんじゃん。色々。あ、お前バイやったよな。ちょ、ガチ教えてや、女とやる時の気持ち。悩まんの？

カイトは失礼な言いぶりにイラっとしている。
リヨウは涙を流す。

コウキ 俺基本男とだからさ、穴一つなんよ。二つあるんやろ？え、ムズw。俺そーゆー時の二択問題ガチミスるから。Oさまのマルバツクイズ正答率ゼロパーしっかり。ウケるくね？

カイトはゆっくりと立ち上がり、コウキににじり寄る

コウキ あと、あの私はロボットじゃありませんってのもエグイwホンマに俺あれのせい
でネットのアカウント一つも持ってないんよ、死んでまうw

カイトはブチ切れて強くコウキを押す。

コウキ は？

カイト お前さ、

コウキ ？

カイト ……キモ過ぎやろ。

コウキ は？

カイトとコウキは喧嘩を始める。

リヨウはそれを嬉々としながら静観する。

男同士の殴り合い。

うめき声や、うなり声が聞こえるかもしれない。

殴り合いから、徐々に腕や腰、足での力のぶつけ合いに。

高まる二人はタックルを始める。

時間をかけて、それは様式化していく。

純粹な身体のエネルギ―の交換になる。

声が聞こえ始める。それは振付らしい。

声

現時点を5、とにおいて、マックスを10、ミニマルを0と置く。実際の身体的なキヤパシティーとのひずみでノッキングが起こるかもしれない。が、それは問題にならない。次第に10になる。加害的な関わりだが、心地がいい。なんなら気持ちよさすらある。段々と、身体が接しあう苦しみが、心地よさに変わる。肌と肌が触れるたびに悦びが電流のように体を駆け回る。その駆け回る電流は決して外部に放出されてはならない。蓄積される。もしかしたら、だが、関節から放電するかもしれない。今、10。キープ。30秒かけて0に向かう。

【第二場(誕生)】

場所は二階にあるタクヤの部屋。

タクヤとカエデはベットで寝転んでいる。

コウキはウサギとなり、閉ざされた冷蔵庫の中にいる。

カイトは心人の飼い猫のタマとなり、部屋の中でくつろいでいる。

リヨウは空間としてその場に居続け、さながらサトウルヌスのようにリンゴを無心で喰らう。

カエデとタクヤはどうやら事後らしく、どことなく呆けた様子。

心人も喉が渴いたらしい。

カエデ あ

タクヤ …ああ

カエデ はよして

タクヤ 分かった

タクヤはゴムを括り、ゴミ箱に捨て、冷蔵庫を開ける。

冷蔵庫の中にいたウサギと目が合う。

目がキユルルンとして、どうしても離すことが出来ない。

カエデはタマを呼び、愛でている。

カエデ まだ？

タクヤ あ、まだ。

カエデ ってかさ、

タクヤ ん？

グラスに水を入れる

カエデ 来てないんよな

タクヤ ん？

カエデ 生理、

タクヤ そうなんだ、不順？

カエデ かな、

タクヤ そうじゃない？

カエデ 違う気するけど

タクヤ いや、そうだろ、着けてるし。

カエデ や、でもミスることもあるっていうし、ね？タマ？

タマは少し悩んでから冷蔵庫の方に向かう。

そして冷蔵庫の中にいるウサギと目が合う、やはり。

カエデ ねえ、なんで。

タクヤ え、いや、は？えっと……っていうかいつから？

カエデ この前が……5月？6月？えーっと

タクヤ だからいつからなのって

カエデ タクちゃんって変なところ細かいよな、待ってね

タマがウサギを威嚇し始める。

ウサギはか弱くも強かに見つめる。

タクヤ、冷蔵庫を閉め、

タクヤ (タマに向かって暴力的に) お前、マジ

タマ (威嚇)

カエデ えーっと、ωヶ月くらいかな多分。

タクヤ なんでもっと早く言わないの？

カエデ いや、今まで無かったわけじゃないし。

タクヤ いや、そうじゃなく……

カエデ どうする？いたら。

タクヤ は？

カエデ いたら、どうする？

タクヤ え、

カエデ おしっこかけりゃ分かるからさ、数分やし。

タクヤ ああ……

カエデ どうする？

タクヤ ……

カエデ 流石に興味無さすぎん？腹立つわホンマ。

タクヤ ……

カエデ 雑やで、そういうところ。直しや。

タマの口からはヨダレが滴る。

タクヤ うん

カエデ で、どうするん？

タクヤ 俺じゃないだろ、それ
カエデ え？

タクヤ やから、俺じゃないって、それ

タマはハツと気付いた様子

カエデ は？ウチアンタとしかしてないでここ半年

タクヤ 嘘つけよ

カエデ へ？

タクヤ 他のとだろ、それ。

カエデ いや、

タクヤ 笑わせんなってお前発情期のネコみたいな性欲してるんだし、まだタマの方がマシだろ。

タマは強く威嚇する。

カエデ は？

タクヤ いや、マジでだるい嘘辞めな。

カエデ どーゆーこと？

タクヤ つかピル飲んでたって言ってたじゃん

カエデ いや、最近体調死んでたから

タクヤ は？つか、え？マジ、

カエデ マジ。

ウサギが降りてくる。

タクヤ いや、してねーだろ、つか出来ねーだろ

カエデ いや、だから

タクヤ 想像妊娠だって、だから、

カエデ は？何言ってるの？

タクヤ つか、本当に俺じゃないからマジで、つか俺とだとしてもお前との子供とか悪魔にしか見えねーわ。

カエデ いや、

タマがより強く威嚇する

タクヤ お前マジで何なんだよ魔女かよ、ってか魔女だろ。
カエデ え？

タクヤ 魔女だろお前ほんとにきめえな、ってか嘘だろ、生理来てないのも
カエデ やから、おしっこかければ分かるって
タクヤ しなくていい！
カエデ チキンやな、

遠くからリヨウの鳴き声

タクヤ お前自分の部屋に帰れよ、いいから
カエデ は？

タクヤ 帰れって
カエデ 嫌なんだけど、
タクヤ いや、マジで。キモいから

タクヤは強くカエデを引っ張る
タマとウサギはそれを眺める。

カエデ 痛いって、やめて
タクヤ 良いから、

タクヤは乱暴にカエデを起こし、投げる。
投げられたカエデは少しの悲鳴をあげるものの、やや嗜虐的な眼差しでタクヤを見据える。

カエデ あのさ、
タクヤ え？

タクヤに近づくカエデ
リヨウはそれに応答するように、リングに激しく歯を突き立て続ける。

カエデ 何にそんなに怖がってるの？
タクヤ は？
カエデ 騒いでも何も逃げないのに。
タクヤ ああ、

タクヤを完全に無力化するカエデ

カエデ 可愛いな。

カエデはタクヤを押し倒す。

リョウの手からリングゴが落ちる。

【第三場(愛情)】

場所は一階の共有スペース。

コウキとカイトが居る。

二階からは、物音。

コウキ またおっぱじまったよ元気やなホンマに

カイト セやな、

コウキ ……お前マジどんなマインドなん？

カイト は？

コウキ リョウ不安定になるたびにやりまくって

カイト したいわけじゃないよ

コウキ もうリョウの便器やんお前、カエデと別れんかったら良かったのに。

カイト ……

コウキ まあ、あん時もお前はカエデの便器やったけどな。

カイト それは違う、

コウキ いいやん、世界に誇るTOTOも便器やしさ、お前すごいよ。

カイト お前に何が分かるん？

コウキ さあ、

カイト あと人のこと言えんやろ、お前も。

コウキ いや、僕はあなたのこと本当に愛してるから、

カイト 下手くそやったけど

コウキ お前のデカイから

カイト ちっさいよ

コウキ もう一回する？リョウより優しくするよ。

カイト ……ごめん。

コウキ 謝んなよ。

カイト ありがとう。

コウキ、自分の心の隙間を自覚し、床掃除を再開する。

コウキ 僕な、神になりたいってか、宗教作んねん。

カイト は？

コウキ 大体宗教の開祖なんかボンボンやし、みんな色狂いから急に節制しだして曲がりまくって悟ったとかゆーて講釈垂れてるんやん、それ俺やん。俺神になるべきやん。ギリシヤ神話よりリアルやん。

カイト ああ、

コウキ 結局世界って、摩擦やねん。(再び床を拭きだして)これ、ゾク、グイ。の世界やねん。世界に対してあてはめようとする言語が唐突やから。ってか言語をあてはめようとするキモさから目離すなよお前、殺すぞ！あかん、ウケw。今最高、ポア。
カイト 好き。

コウキ 宗教って属人性高すぎるから、ハイカルチャーだから、サブカルに引き下ろしたいよね。平板化してー曼荼羅、厚くサンポー敬いたい。太田漢方胃腸薬。胃腸キモチ
ー
カイト 見ろよ、

コウキ もしこれでみんな悟れるようになったら何すんだろ、平板しかない平板みたい
らな世界で手触り全部ツルザラキモチーやからキモチーでいいよな、

コウキの身体は日常の制約から逸脱し、空間の制約とセックスし始める。

リヨウが目を覚ます

カイトとリヨウがお互いに見つめ合う。

リヨウ ごめん

カイト いいよ、

リヨウ 嫌やった？

カイト いや、

リヨウ 良かった、

自身の暴力性に怯えながら近づき、慈しむようにカイトに触れるリヨウ

リヨウ なんで、毎回受け入れてくれるの？

カイト ん？

リヨウ カイトって、広いよな。

カイト 広い？

リヨウ 受け入れてくれて、しっかり抱きしめてくれて、

カイト そうかな、

リヨウ そう、やと思う。

リヨウ・カイト、優しいキスを交わす。

リヨウ 私おかしくなるからさ、定期的に、私がしたいわけじゃないんやで。でもなんか、止まらんくなって毎回毎回傷付けてしまう。

カイト 傷ついてなんかないよ。

リヨウ　なんか、さ、カイトがおらんとおかしくなってしまう。

カイト　うん、

リヨウ　ごめん、本当は、もっと大切にしたい、のやけど

カイト　わかってるよ

リヨウ　ごめん

カイト　思い出してまうんやろ

空間とセックスしているコウキが、リヨウの身体と戯れ始める。

リヨウ　うん、なんか思い出してまう。なんか、私さ、あの日さ、朝起きた時からおかしかってん。ホンマに、グイーンってなあって、部屋の周りが。で、部屋の明かり着けたら弟が首吊っててさ、でもなんか、嫌な予感はしてたから、何となくわかってはいたから、やからなんか、うん。変に、逆に納得したって言うか、ああ、あ、ああ。

コウキは、リヨウから離れる。

カイト　うん。

リヨウ　つてかさ、カイトってアキラに似てるんよな。顔立ちとか、雰囲気とか、なんか居るねんな、

カイト　いつも言うなそれ

リヨウは、カイトの髪の毛を撫でる。

刹那、リヨウの目にカイトはアキラとして映る。

悦びからくる物凄い嬌声。

興奮のあまり、五体投地さながら地面に強く身体を打ちつける。

リヨウ　アキラ、戻ってきてくれたん？

カイト　ああ、

リヨウ　アキラ、好き。一緒に居てな、裏切らんといてな、うちアキラだけやから。もう勝手に居らんくならんといてな

カイト　何言ってるねんな

リヨウ　だって、

カイト　一緒に暮らしてんねんから、

リヨウ　・・・ありがとう、

カイト　うん。

リヨウ　あのさ、分かってもらえるか分らんけど、ど、ど、ど、なんか一人でぼーっとして

たらさ、バカ五月蠅いねん。なんでやるなあって思ったら下半身どろーんって、全部液体になってな、そんでな、かき集めんねん、けど取れへんねん。

カイト

怖いな。

でもな、なんか、本当にカイトのことを思えば思うほど、ぎゅーっしたくなる、アキラの、内臓の暖かさにもう一回包まれたくなる。全部知りたくなる、うちはアキラのこと最後まで分かってあげられなかったから、分かりたい、けど、見えないの怖い、

カイト

せやな、

リヨウ 一からバラしてみたくなる。バラ、バラし、バラ、でもバラしたらきつとカイトなくなっちゃうから、いや、だけど、バラしたい。い、い、い。全部知ってみたいの、

好きな人の、全部。

カイト

なんで？

リヨウ

離れないでほしい。

カイトは、リヨウの手を握り、リヨウの指を口に含む。

カイトは、リヨウの手を自分の首元に持つていく。

支配的な視線でリヨウを絡めとるカイト。

カイト 感じる？

リヨウ うん、あ、うん、う、う、うん。

カイト 怖くない？

リヨウ 怖くない、けど、ダメ、壊したら、壊したら、壊し、もう一回、壊したら、会えるかもって！！！！

リヨウは自己防衛反応として笑いが止まらなくなる。

呼吸は高まり、リヨウはガチガチに勃起する。

性的高揚と、生存本能に、リヨウは隷属的に支配される。

リヨウは、カイトの瞳に映るすべてに対し、ナルキッソスのように見入ってしまう。

カイトは自身の首を絞めることを強制すべく、リヨウの両手を自身の首に運ぶ。

その蠱惑的な魅力と輝きに抵抗できず、泣きながらも絞殺を試みるリヨウ。

リヨウ いいの？

カイト

リヨウ 嫌じゃないの？

カイト

リヨウ 行くよ、まままままままままマジで。

【第四場(融和)】

二階にあるタクヤの部屋。

タクヤの元にやって来る、コウキ。

コウキは依然として、空間の制約とセックスし続けている。

タクヤ あのさ、

コウキ ん？

タクヤ 樹木の『樹』と、『木』の違いって分かる？

コウキ ……大樹か、枝か、みたいな。

タクヤ あー、

コウキ うん。

タクヤ じゃあ、丁寧と、丁寧は？

コウキ 心籠ってるか、籠ってないか。

タクヤ へー、

コウキ いや、え、なんで？

タクヤ いや、そろそろこの家から出ない？

コウキ なんで？

タクヤ フツーにキモいじゃん、

コウキ キモいかな。

タクヤ キモいよ、全員穴兄弟だし、竿姉妹だし、血濃いし、なんか定期的に泡吹いて失神する奴いるし、

コウキ 言われてみれば、

タクヤ おかしいだろ、普通。

コウキ フツー？

タクヤ (振り向いて)お前なんか、空間とセックスしてるし。

コウキ あ、今ね、ココ(空間を指して)にこう(動作)やってセックスしてる。

タクヤ いや、フェチきつすぎるって

コウキ かな？

タクヤ うん。

コウキ あー

タクヤ つか、リョウなんであんなにバット入ってるの？

コウキ 知らんの？

タクヤ おれ、カエデに誘われただけだから

コウキ ああ、

タクヤ おん、

コウキ アイツさ、ちっさいころに離婚して、母方の実家に預けられて、弟亡くしてんだよ。

タクヤ そうなんだ。

コウキ なんか、虐待ヤバかったらしくて、中学三年の時に自分で、

タクヤ ああ、

コウキ アイツも大学入ってからは金せびられて、まあ、身体売ったり。で、あの有様。

タクヤ え、なんでいんの？

コウキ え？

タクヤ この家

コウキ カイトのことを愛してるから、

タクヤ いや、お前じゃなくて

コウキ え、あ、

タクヤ うん。

コウキ お前と一緒にやで、

タクヤ うん、

コウキ 寂しがりややねん。

タクヤ え？

コウキ 答えられないっしょ。

タクヤ あ、うん、いや、

コウキ ダメなん？好きとか、一緒に居たいだけで、ここ居たら、

タクヤ その内だれか死にそうだけどな、

コウキ あ、大丈夫。その頃僕神になるから、

タクヤ へ???????

コウキ あれ？僕言ってなかったっけ？あれやねん、この世って摩擦と抵抗やからさ、ゾク、

グイ、やからさ、それでポアがポーンでパンパンやからさ、まあ、セックスよな。

それで一旦悟ろと思っつて。

タクヤ ああ、

コウキ こんな世界でさ、自我保ってんのアホらしない？一旦一緒に悟る？

タクヤ 遠慮しとくわ、

コウキ えーーーーー、

タクヤ つつてか、弟死んだ場所でよく住み続けられるよな、パパ活とか援交までしてしがみ

つくか？

コウキ エンコー、ウケwカエデじゃん

タクヤ アイツは発情期の猫だからちようどいいだろ、

コウキ うわw見ないふりしてるw

タクヤ へ？

コウキ お前ら誰も信じられんのやろ、お似合いやん。お似合い。

タクヤ あ、ああ、

コウキ、いつの間にかタクヤの横に座っている。

コウキ (自身の太ももを叩きながら)おいでよ、
タクヤ は？

コウキ 怖くないから、
タクヤ ……

コウキの膝に恐る恐る頭を預けるタクヤ。
怯えてはいるが、居心地は良さそう。

コウキ ……一回する？

タクヤ 男は勘弁。

コウキ 可愛いな。

タクヤ 背伸びすんなよ。

コウキ ……可愛いよ。

タクヤは、コウキの膝に顔をうずめる。

【第五場(再生)】

一階の共有スペース。

カイトとカエデが居る。

カエデの視線なのか、香りなのかわからないが、何かによって振り向くカイト

カイト 何？

カエデは静かに近づく

カイト 何。

カエデは、カイトの隣に腰を下ろす。

カエデは、カイトの手を握りに行く。

カイト 辞めて

カエデは、カイトの手を握る。

カエデ なんぞ？

カイト …… 苦しい。

カエデは、カイトの手を自分の方へ引き寄せる。

カイト お願いやから、

カエデ ……

カエデは、カイトの手を握り続ける。

カエデ あのさ、

カイト ン(発話しても、しなくてもよい。)

カエデ …… 居るかも、

カイト ?

カエデ 赤ちゃん、

カイト ……

カエデ どうしよう。

カイト ……

カエデ どうしよう・・・。
カイト・・・
カエデ なんか言っつてよ。
カイト ごめん、
カエデ ごめんじゃなくてさ、
カイト・・・苦しい、
カエデ・・・、
カイト 俺の子？
カエデ・・・(否定)
カイト なんて言うん、それ、
カエデ・・・
カイト ごめん、苦しい。
カエデ・・・分からへん。
カイト は？
カエデ 分からへん。

カエデは涙を流す。

カイトは、その涙のみに寄り添う。

カエデ 嫌い？
カイト・・・
カエデ 私のこと、
カイト・・・いや
カエデ そら嫌いよな、辞めといた方が良いよな、ごめんね、
カイト・・・好き、か・・・は、分らんけど。
カエデ・・・
カイト 大切には、思ってる。まだ、
カエデ・・・
カイト 大事だよ、
カエデ・・・
カイト・・・愛してる。
カエデ・・・
カイト・・・
カイト

カエデは、ゆっくりと、湿度を保ちながらカイトの手を求め、頬に持っていく。
ギリギリのところカイトは強く拒絶する。

カエデ なんて？

カイト ダメだよ、

カエデ なんて？！

カイト お互いに、そんな資格無いよ、

カエデ

カイト 終わってるやん、俺ら

カエデ . . .

カイト 終わってんねんて、根っこから、

カエデ . . .それは、どっち？

カイト . . .両方

カエデ

カイト

カエデ なんて？

カイト

カエデ なんてなんでなんでなんでなんでなんでなんでなんでなんでなんで

カイト 分かってるでしょ、

カエデ なんて、ねえ、なんで??????

カイト もう逃げんの辞めよう。お互い. . .下手くそやねんから、

カエデ ねえ、

カイト 下手くそやねんから、終わってんねんから、上手いふりせんで良いって、しんどい

って、

カエデ しんどくないよ、

カイト しんどいよ、

カエデ ねえ. . .

カイト もう、疲れたから、

カエデ . . .

カイト 辞めて。

カエデは、カイトを抱きしめる。

カエデとして、心から抱きしめる。

カエデ どうしたらいいの？

カイト . . .

カイト・・・
カエデ ねえ、・・・

リヨウ、カイトをカエデから引きはがし、カエデに対し、

リヨウ クワーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

暗転。

【第六場(暴力)】

一階にある共有スペース。

リヨウは、嫉妬と劣情と背反する身体と精神との関係の中でカエデを殴り続ける。

カエデは、抵抗することなくその無機質な反復を受け入れ続ける。

リヨウ・・・大好きい、ほしいなあ、いいなあ、すきい・・・

リヨウは、殴り続ける。

殴る対象が分からなくとも、無分別に殴り続ける。

カイトはそれを目撃する。

リヨウ (雄叫び)

殴り続ける。

きえる。

【第七場（抱擁）】

二階にあるタクヤの部屋。

単調で無機質な暴力の反復が鳴らす鈍い音が聞こえる。

いつ間にか寝ていたタクヤとコウキは目を覚ます。

二人は、しばらくの安息から追放される。

タクヤ ん、

コウキ ああ、

タクヤ なんか揺れた？

コウキ あ、なんか下でドストスゆーてたけど

タクヤ またやってんのかよ、キツ

コウキ 俺らもやる？

タクヤ だから趣味じゃねーって、

コウキ 性別の問題？

タクヤ まあ、

コウキ 出ていくん？

タクヤ 多分。

コウキ 一人でも？

タクヤ うん。

コウキ へえ、

タクヤ ……ああ、

コウキ あのさ、

タクヤ ん？

コウキ 君僕のこと好きやろ。

タクヤ え？…

コウキ （両腕を開いて）いいよ、

タクヤ ああ、

コウキとタクヤが抱きしめ合う。

タクヤは、初めて人を知る。

タクヤとコウキの元にカイトがやってくる。

殴られ続けているであろうカエデと、目の前の光景に整合性が取れず、笑いが止まらない。

カイト あーあ、

タクヤ・コウキ（気づく）

コウキ どうしたん、

カイト ヤロ。

コウキ ……え？

カイト あかんの？

コウキ いや、

カイト

カイト ええから、はよ、

コウキにキスをするカイト。

コウキはそれを受け入れる。

カイトからの、極めて支配的なキス。

それは例えばダンス的な何か。

それに隷属するコウキ。

タクヤ は？え、キモ。

カイトとコウキはキスをする

タクヤ お前ら場所考えろって、いや、マジきめーから。な？ちよ、さかり過ぎだってマジ。

脳みそチンコかよキモチわりーなマジ。

カイトはコウキとのキスを中断し、

カイト 黙って見てろよキメーな殺すぞ。

キスを再開するカイトとコウキ。

タクヤ は？いや、キモいから、お前らの貞操観念どーなってるんだよ死ねよマジ流石に笑え

ねーわマジキモい、死ねよお前ら悪魔かよ、いや、マジ悪魔だわ、ってか悪魔だわ。

カイトはコウキとのキスを中断し、タクヤの元へ。

そして、カイトはタクヤに頭突きをし、殴り、蹴り、とにかく暴力を行う。

次第にタクヤは抵抗する術すら失うが、カイトは問答無用に殴り続ける。

ひと段落すると、コウキの元に戻る。

そこに快樂・悦びはない。

そこに苦痛・哀しみはない。

純粹な、摩擦と抵抗がある。

世界を繋ぎとめるための、摩擦と抵抗がある。

この世界で呼吸を出来ない彼らは、新たな世界の基準を作る。

そこにあるのは、摩擦と抵抗のみである。

ツル、ザラ、ゾク、グイ。キモチー。

【第八場(慈愛)】

一階にある共有スペース。

カエデが、一人で赤ちゃん(マクドナルドのハッピーセット(チキンナゲットセット)・チキンナックナゲット・バーベキューソース・ポテトフライ・ケチャップ・ココロラス・ゼンマイ式のニワトリの玩具)を持ち、無心に咀嚼をしている。

そこにタクヤが入ってくる。

カエデは、それに気づくが無関心に食事を続ける。

カエデは、嘔吐する。

タクヤはその音でカエデの存在に気づく。

沈黙

タクヤの絶望

カエデは無関心である。

タクヤ　なあ、

カエデ　・・・

タクヤ　なにそれ。

カエデ　・・・

タクヤ　どうしたの、それ、

カエデ

タクヤ　なあ、

カエデしばらく考えたのち

カエデ　出てきてん。

タクヤ　???

カエデ　さっきさ、殴られたらお腹痛くなってさ、トイレ行ったらさ、これ、出てきてん。

タクヤ

カエデ

タクヤ　え？

カエデ　だから、出てきてん。

タクヤ　どこから???

カエデ　(下腹部を指し)こっから、

タクヤ　え、

カエデ　出てきたときからバラバラやってさ、そらそうか。はははは、そのまま出してあげ

その様を少女のような無邪気さと、虚無的な笑顔をしたため、嬌声を上げながら喜ぶカエデ。

まるで赤子に語り掛けるように、

カエデ よしよし、よしよし、可愛いな。かわいいー。ははは、かわいいね。かわいい、かわいいー、ほら、かわいいーでしょ？かわいいー、めっちゃかわいいね、可愛いね。よしよし、はははははははは、

ニワトリの玩具がタクヤを向く。

タクヤは腰が抜ける。

カエデ ははは、はははははははははははははははははははははははははははははは、

カエデは、様々に塗れた手でタクヤの顔を無作為に触る。

カエデ

まだ、

いる？

タクヤは崩壊する。

カエデは、タクヤを抱きしめる。

【第九場（融合、フュージョン、）】

舞台上、タクヤとカイトは果て、カエデは赤ちゃんを食べ続け、タクヤはカエデの膝で壊れている。

リヨウは、舞台空間をさまよひ、全てと出会う。

リヨウ アキラー、アキラー、アキラ、あきらー、

そして、第二場で落としたリンゴを発見する。
それを拾い上げて見つめる。

リヨウ あきらあ、

リヨウはリンゴを愛撫した後に、食べようとする。

壮絶な拒絶反応。

リヨウはリンゴを握りつぶしながら、なんとか口に含む。

腕からは、白濁し、泡立った果汁が滴り、指の隙間からは圧力に耐えかねた果肉がはじけ飛ぶ。

咀嚼し、食べる。

何度も吐きそうになる。

吐きそうになるたびに、無理やりより多くのリンゴを口に含む。

突然、リヨウは目を見開き、ぐちゃぐちゃのリンゴを点検し、

リヨウ あんまり・・・

リヨウ ……美味しくないな。

リヨウはぐちゃぐちゃのリンゴを床に捨てる。

♪ 『Gimme Love』 Joji

終。